

会議の名称	第2回西東京市高齢者保健福祉計画検討委員会
開催日時	平成20年6月3日(火曜日) 午後2時45分から午後3時45分まで
開催場所	西東京市役所保谷庁舎 防災センター6階 講座室2
出席者	(委員)北澤委員、畠山委員、平野委員、陸名委員、阿委員、須加委員、五十里委員、中村委員、豊富委員、齊藤委員(欠席：橋岡委員、織田委員) (事務局)福祉部長、福祉部参与、高齢者支援課長、高齢者支援課主幹以下4名
議題	1 第1回会議録の確認について 2 現行計画の概要について
会議資料	1 高齢者保健福祉計画検討委員会第1回会議録 2 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第4期)計画構成(案) 3 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第4期)策定検討の枠組み
会議内容	☐ 全文記録 ☐ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☒ 会議内容の要点記録

1.開会

配付資料の確認

2.議題

(1) 第1回会議録の確認について

■事務局：資料1「高齢者保健福祉計画検討委員会第1回会議録」について

座長：事前に配布した前回会議録の内容について間違いがないかの確認をお願いしたい。

特に問題がなければ、議事録については、原案のとおりで確定する。

(2) 現行計画の概要について

■事務局：資料2「西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第4期)計画構成(案)」

資料3「西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第4期)策定検討の枠組み」に基づき説明。

座長：この委員会で検討することと運営協議会で検討することを整理してもらった。

市では基本計画や地域福祉計画や健康増進計画などは、どのように進行しているのか。

事務局：総合計画は今年度、後期計画の見直しが行われている。地域福祉計画は、平成16年度から20年度の計画であり、見直しを行っている。健康づくり推進計画は、平成16年度から22年度の計画期間であるが、特定健診の関係があり一部見直しを予定しており、大幅な見直しは21年度となる見込み。

座長：市の基本計画の中で、高齢者の保健福祉の理念や基本的な方向などは、どのように考えられているのか。

事務局：上位計画などは、計画書の4ページに理念が記述されているが、今回の総合計画の見直しによる高齢者関係の理念などの新しい情報などを皆さんに示していきたい。地域福祉計画についても、直近の理念などは上位計画のため一定の方向性を示していきたい。

事務局：地域福祉計画は5月27日に第1回の委員会を開催したばかりであり、まだ提示できるものはないが、上位計画ということで整合性を図っていききたい。総合計画やその他の計画についても情報を提供していきたい。

委員：市ではたくさんの福祉や保健にかかわる計画を策定しているが、地域福祉計画は、様々な福祉の計画を束ねた福祉の総合計画なのか。どういう視点から作成される計画なのか。

事務局：地域福祉計画は福祉の総合計画と考えてよい。個々の施策の事業は、それぞれの法別の計画が具体化され、それを地域福祉計画の中で具現化し体系化していくものである。地域の中でいろいろな事業が活かされ、地域の人々の協力を得ながら、環境づくりをしていくことが必要である。国からも地域での要援護者の状況も地域福祉計画に盛り込むような通達が来ているので、地域で実践できる環境づくりが必要である。

副座長：わかりやすく言うと、地域福祉を推進しているのは、社会福祉協議会や民生委員である。しかし、事業者や施設だけが福祉をやるのではなく、地域住民が福祉を推進している。地域全体で助け合うことが地域福祉である。

座長：具体的には7、8月で検証作業をしており、報告をいただく。ここでやることについてご説明をいただいたが、具体的な内容については次回以降になるがよろしいか。

委員：あちこちで福祉のサークルがあるが、各自ばらばらで横の連携が取れていない。縦割りの的なところがある。どこかで横のつながりのある全体的なものにしていく必要があるのではないか。なるべく関連した形でやってほしい。この会議では、われわれ高齢者が終末をこの市でどうしたらよいかを考えてほしい。前の会議と重複しないようにしていってもらいたい。

座長：高齢者の保健福祉計画ということですが、保健部分がなくなり、福祉計画だけが根拠として残っており、老人福祉計画としての性格が強いため前回の検討と少し違っている。次回以降の具体的な内容について市から示していただけたらと思っている。他には何かありますか。

委員：前回の会議では、保健がどこまではいつてくるかということであったが、区市町村別の平均寿命が発表となり、西東京市は男性が80.4歳、女性が86.1歳と長生きである。保健部分は今回の法律では外れたが、この計画には加えていただくとよいのではないか。

委員：西東京には地域協働推進センターに非常に期待しているが、団体の代表ということで、まだ、住民の声ということにはなっていない。統一のテーブルの中でできないかと思っている。

座長：このことについて、事務局で何か情報はありますか。

事務局：企画部で地域協働推進センターを計画している。新たな施設ではなく、田無庁舎隣のビルの空いたスペースで運営を始める予定である。運営を地域に担ってもらうため、今、検討会を設置したところである。

座長：他には何かありますか。

委員：いろんなところでいろんな活動があるという意見があったが、社会福祉協議会としては、個別のニーズに対応するためにはいろんなところでいろんな活動があって良いと思っている。市民が一番自分にあった活動に参加する、といった個別のニーズに対応するためには、社会資源を整備したり、その人にあった情報をつなげてあげることが必要である。また、ニーズの把握というところで、できるだけ多くの方の意見を聞くことも必要であるが、社会福祉協議会ではまだまだ足りない。今回、社会福祉協議会でも地域福祉活動計画を策定するが、市の計画と連携しながらニーズ把握に重点的に取り組んでいきたい。そういった中から、誰もが、安心して暮らせるまちという施策があげられればよいと思っている。

委員：市長は格差ではなく温度差と言った。いろいろなところで努力している人があ

ちこちにて、たくさんの人が福祉活動をしており、その多くの人の力を結集して、よい方向に行くとよいと思う。

座長：行政の縦割りの活動に対し、住民が横につなげていけるとよい。次回以降は、少し具体的な議論ができると思う。

3. その他

事務局：次回の委員会は、7月1日の火曜日。2時45分から、この会場で行う。開催通知などは後日郵送させていただく。

4. 閉会